

# 排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

A 重油ボイラから木質バイオマスボイラへの  
更新プロジェクト

排出削減事業者名：持永木材株式会社 印

排出削減事業共同実施者名：株式会社F Tカーボン 印

排出削減事業共同実施者名：合同会社F Tカーボンマネジメント 印

その他関連事業者名： 印

申請日：2019年7月18日

## 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	持永木材株式会社
排出削減事業を実施する事業所（複数の事業所で実施する場合、行を挿入し全事業所を記載すること）	
事業所名	本社工場
排出削減事業共同実施者（J-クレジット保有予定者）	
排出削減事業	株式会社F Tカーボン

### 1 排出削減活動の概要

#### 1.1 排出削減事業の名称

A 重油ボイラから木質バイオマスボイラへの更新プロジェクト

#### 1.2 排出削減事業の目的

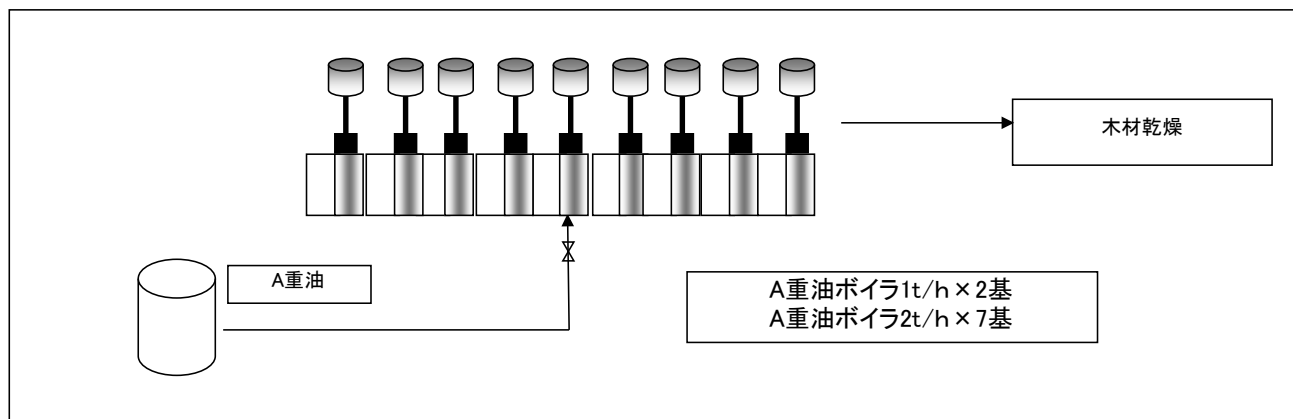
A 重油ボイラ 9 基を木質バイオマスボイラ 1 基へ更新する。木質バイオマスを使用することによって、CO2 排出量を削減する。

#### 1.3 温室効果ガス排出量の削減方法

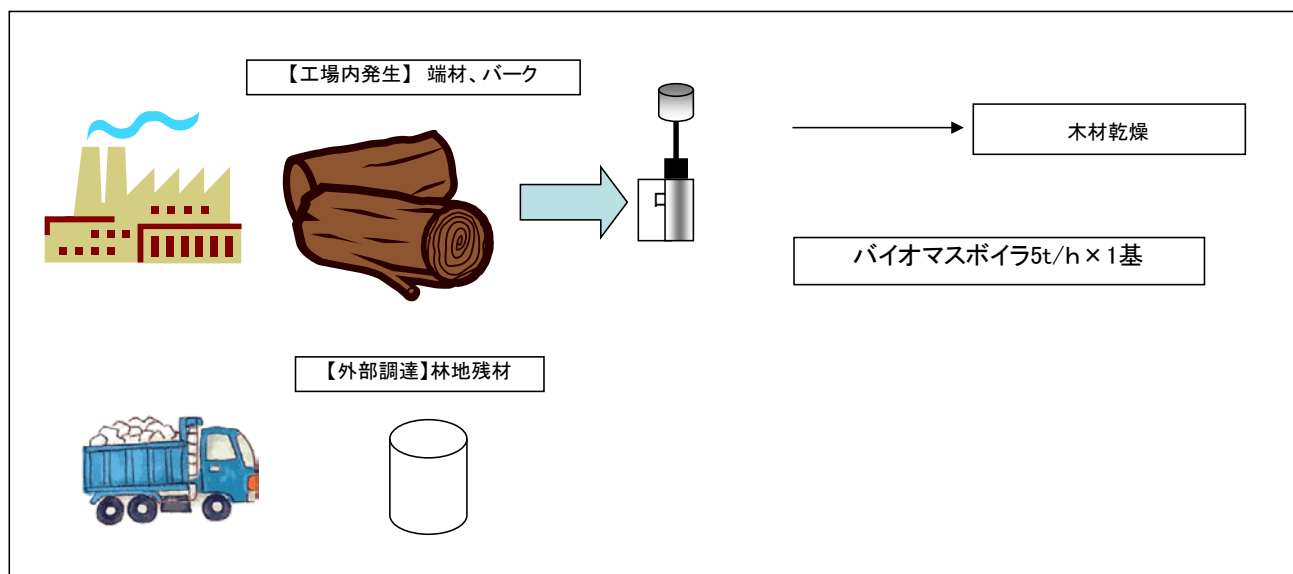
木質バイオマスはカーボンニュートラルが適用され、CO2 を実質的に排出しないものとみなされるため、現在使用している A 重油ボイラを木質バイオマスボイラに更新することで、CO2 排出量を大幅に削減する。なお、既存の木質バイオマスボイラは引き続き稼働し、A 重油ボイラはバイオマスボイラのバックアップ用ボイラとして稼働させる。

(備考) A重油ボイラから木質バイオマスボイラへの更新プロジェクトの概要

(排出削減事業実施前の設備概要)



(排出削減事業実施後の設備概要)



#### 1.4 J-クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

#### 1.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

【本認証申請時に申請】

①排出削減事業担当者、モニタリング活動担当者の部署

(変更前) 生産部 (変更後) 総務部

②排出削減事業共同実施者の追加

排出削減事業共同実施者名	合同会社F Tカーボンマネジメント
担当者氏名	富士 昌孝
部署・役職名	代表社員

E-mail	<a href="mailto:fuji.masataka@ftcarbon.co.jp">fuji.masataka@ftcarbon.co.jp</a>		
電話番号	03-6695-0089	Fax 番号	03-6721-5506
住所	東京都港区虎ノ門 4-3-1 城山トラストタワー31 階		
排出削減事業共同実施者の役割	J-クレジット買取り		
J-クレジットの使用用途	<input type="checkbox"/> 自主行動計画の目標達成に用いる <input type="checkbox"/> 試行排出量取引スキームの目標達成に用いる <input type="checkbox"/> 共同省エネルギー事業の報告に用いる <input type="checkbox"/> 調整後温室効果ガス排出量の報告に用いる <input checked="" type="checkbox"/> その他（未定）		
省エネ法特定事業者番号又は特定連鎖化事業者番号			

## 1.6 排出削減事業に関わる設備（詳細）

（排出削減事業実施前の設備）

設備名称(メーカー・型番)	三浦工業 SI-2000ZH 【A 重油ボイラ】
設備導入時期	2002年3月、2002年11月、2003年11月（2基）
法定耐用年数	15年
直近の法定検査受審日	なし
設備効率	90%（カタログ値、低位発熱量基準）

設備名称(メーカー・型番)	三浦工業 SI-2000VH 【A 重油ボイラ】
設備導入時期	2005年2月
法定耐用年数	15年
直近の法定検査受審日	なし
設備効率	90%（カタログ値、低位発熱量基準）

設備名称(メーカー・型番)	三浦工業 ES-1000 【A 重油ボイラ】
設備導入時期	2002年7月、2002年11月
法定耐用年数	15年
直近の法定検査受審日	なし
設備効率	85%（カタログ値、低位発熱量基準）

設備名称(メーカー・型番)	IHI K-2000L 【A 重油ボイラ】
設備導入時期	2008年7月（2基）
法定耐用年数	15年
直近の法定検査受審日	なし
設備効率	88%（カタログ値、低位発熱量基準）

※参考 既存バイオマスボイラ

設備名称(メーカー・型番)	タカハシキカン KT-H-500 【バイオマスボイラ】
設備導入時期	2003年7月
法定耐用年数	15年

直近の法定検査受審日	なし
設備効率	75% (カタログ値、低位発熱量基準)

(排出削減事業場所の画像)



(排出削減事業実施後の設備)

設備名称(メーカー・型番)	タカハシキカン KT-CL-500
法定耐用年数	15年
設備の利用効率	75%(低位発熱量、カタログ値)

## 2 排出削減活動期間

### 2.1 プロジェクト開始日

2010年7月20日

### 2.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2016年4月1日 ～ 2018年7月19日

## 3 温室効果ガス排出削減量

### 3.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

### 3.2 活動量

#### 3.2.1 活動量・原単位

活動量は採用しない。

#### 3.2.2 活動量の採用根拠

活動量は採用しない。

### 3.3 事業の範囲 (バウンダリー)

バイオマスボイラー及びボイラーから蒸気の供給を受ける設備

#### 4 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モ ある
$W_{Pj-ex}$	既存バイオマスボイラ給水量	t	25,734.949	給水メーターによる計測データ	変更
$B_{Pj-ex}$	既存バイオマスボイラのブロー率	%	7.3530	水質分析報告書に基づく管理値	変更
$H_{steam,Pj-ex}$	既存バイオマスボイラの蒸気の比エンタルピー	GJ/t	2.775 (0.95MPa)	蒸気圧メーターの計測データを用いて計算	変更
$H_{water,Pj-ex}$	既存バイオマスボイラの給水の比エンタルピー	GJ/t	0.088 (21度)	温度計の計測データを用いて計算	変更
$W_{Pj-new}$	新設バイオマスボイラ給水量	t	39,411.677	給水メーターによる計測データ	変更
$B_{Pj-new}$	新設バイオマスボイラのブロー率	%	8.4741	水質分析報告書に基づく管理値	変更
$H_{steam,Pj-new}$	新設バイオマスボイラの蒸気の比エンタルピー	GJ/t	2.771 (0.87MPa)	蒸気圧メーターの計測データを用いて計算	変更
$H_{water,Pj-new}$	新設バイオマスボイラの給水の比エンタルピー	GJ/t	0.083 (20度)	温度計の計測データを用いて計算	変更
$\epsilon_{BL}$	事業実施前 A 重油ボイラ効率	%	84.431 (高位発熱量)	カタログ値	変更
$CF_{fuel,BL}$	A 重油の単位発熱量あたりのCO <sub>2</sub> 排出係数	tCO <sub>2</sub> / GJ	0.0708	J-クレジット制度のデフォルト値	変更

## 5 排出削減量の計算

### 5.1 事業実施後排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
			0.0
EM <sub>PJ</sub>			0.0

### 5.2 ベースライン排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
25,734.949 (t)	2.775 (GJ/t)	0.0708 (tCO <sub>2</sub> /GJ)	
7.3530 (%)	0.088 (GJ/t)		
39,411.677 (t)	2.771 (GJ/t)		
8.4741 (%)	0.083 (GJ/t)		
17,212.702 (t)	2.774 (GJ/t)		
8.9665 (%)	0.125 (GJ/t)		
84.431(%)			
EM <sub>BL</sub>			5,493.6

### 5.3 リークージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
			0
LE			0

### 5.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EM <sub>BL</sub>	5,493.6
事業実施後排出量 (7.1)	EM <sub>PJ</sub>	0
リークージ排出量 (7.3)	LE	0
温室効果ガス排出削減量	ER	5,493

## 6 省エネルギー量

本事業は、再生可能エネルギーを利用するプロジェクトのため、省エネルギー量はない。

## 7 再生可能エネルギー利用量

原油換算 (実績)
2,253.7 kL